

# 千葉縣の道路改良計畫

一 記 者

東京に隣接してゐる千葉縣、大東京の消化する農産物や  
ら漁類の供給地として位地的に恵まれてゐる、夫れに房總  
の地は氣候に恵まれ年中季節を問はないで色々を農作物を  
産むと言つた天與の地だが、夫れに神奈川や靜岡邊で出來  
た農漁の獲物が東京に進出して所謂千葉物を見ないのは何  
故であらう、とは東京の市場を見たものゝ直に頭に浮ぶ疑  
問である。千葉は人口が多くて收獲物を其の地で消費して  
しまふ、と考へ直しても千葉縣人が大食家揃ひでもあるま  
い、矢張り交通機關が整備してゐないお蔭だ。

成る程、東京から千葉を通つて房州半島を一周してゐる  
鐵道やら四五線の國鐵から軌道までも敷設されてゐるが、  
季節的な農漁獲物を運送するには餘り不適當である、

夫れを合理的に運送する爲にはどうしても道路を改良して  
自動車を経済的に利用することに在るのであるが、地質に  
恵まれない千葉縣は道路に撒布する砂利は見たくともな  
い、其の勢で良くせなければならぬ道路は殆ど顧みられ  
ぬない、愈々道路交通は行詰つて神奈川や靜岡の農漁獲物  
に東京市場を壓倒されてゐるのだ。

夫れで千葉縣の更生を圖る爲には道路を改良することが  
急務だ、と叫んだ人もあつたが、代々の知事公で利巧なの  
は夫れを計畫しやうとした連中もあつたが、内閣の更迭あ  
る度に轉任せしめられて、結果から見ると唯だそれを口で  
言ふただけに終つたのであつた、政府が失業者の救済を口  
實に東京千葉間國道の改良に着手してから、道路改良の利

益は千葉縣人の頭を急に刺戟したものだ、其の氣分の濃厚な時代に知事として赴任したのは、多年内務省の河川課長をしてゐた岡田文秀氏であつた、河川通を千葉に送くることは、千葉の道路が一層頹廢すると啣つ連中もあれば、天下の大川と言はれてゐる江戸川や利根川に包圍され、印旛沼や手賀沼を管轄する千葉縣知事として同氏を任命したのには可い人事行政ちやと囃立てた近眼者もゐて區々に批評したが、縣治をして治水利水を策するよりは、もつと急務なものは道路の改良であつた、水利政策の權威として自他共に許してゐる岡田氏が道路政策を如何に樹てるかは吾等の注視するところであつたが、昨年の縣會で此問題を解決した、夫れが今茲に紹介する千葉縣道路改良計畫である。

○ 千葉縣の府縣道は其の延長五百八十三里に亘つてゐるが、在來の道路の儘で放任されてゐる所謂未改修道路が四百六十里もあつて、其の内には自動車の交通を許さない道路が百五十里もある、路線ばかりで道が無いと言ふ實情で

ある、假令自動車交通が許されるものでも前にも言つたやうに砂利に恵まれてゐない爲に他縣から供給を受ける勢で府縣道と言つても土道の狀態を呈してゐる、此有様だから道路の改良に就て考へなかつたのではない、大正九年の縣會で十年度以降十一ヶ年繼續で千三十二萬圓を投じて改良する計畫を立てたこともあつた、夫れを昭和三年の縣會で廢止して更に四年度以降十ヶ年繼續で千七十二萬圓を支出する計畫を立てたが、例の財政緊縮の風潮に禍されて四年度に廢止してしまつた、それ以後と言ふものは自動車の増加に反比例して道路の改良は捨てられたのである、時の政府が道路改良計畫を捨てたのは今も眼先きの利かない考案として物笑ひの種となつてゐるが、東京に近い千葉縣だけに其の傳染力も強かつたのであらうが、兎も角折角の計畫は潰されたのである。

河川政策の確立に奔走するであらうと批評された岡田知事は、其の言を裏切つて新道路改良計畫を樹立したのである、夫れは所謂未改良に屬する四百六十里を改良する爲に

は二千五百萬圓の費用を要するので、之を計畫するには縣財政の將來を考へねばならぬ、又之を長期に亘つて改良することにしても交通状態の變更等に依つて適切ではない、で實行の可能性ある範圍に於て計畫するのが適當であると言ふので五ヶ年計畫を樹立した、改良方針を二大系統に分類して、所謂改良計畫と路面舗裝計畫とに分ち、自動車の交通を許さない百五十里の内最も改良の効果顯著な百五十線を選定して二百五十萬圓を投じて五十六里を改良せむとするものと、従來の道路に砂利を撒布することが困難であつたのと地質の關係で路面が荒されてゐるから縣内幹線七路線と人家連檐箇所とを二百五十萬圓で四十里を改良せむとするのである、詰り改良と舗裝とを併立せしめて改良する案であつて、昭和七年度六十五萬圓、八年度百八萬圓、九年度以降十一年度までは毎年百九萬圓づゝ詰り五百萬圓を支出せむとするのである。

固より此案は千葉縣下に於ける全府縣道路の根本的改良計畫ではない、併しながら交通状態の日に變遷する現時に

於て世間往々見るやうに徒に數十年の長期に亘つて尨大な計畫を樹つることは所謂畫餅に終るのであつて實行性に乏しい、俺れの知事時代に道路の大改良計畫を樹てたとよく聞かされるのであるが常に其の計畫は二三年で潰されてしまふのが常態である、之を想ふときは餘り長期のものは感心しない、岡田氏は之に鑑みて所謂應急對策を立てたものであつて筆者も亦賛成するに吝でない。

此の計畫に基いて二十二萬三千米の未改良道路が改良され、十六萬二千米の府縣道が舗裝せらるゝことゝ爲るのであるが、前者に就ては餘り多くを言ふの必要はないが、現在道路の舗裝問題である、道路の幅員は相當なものであつても路面が悪い、従つて自動車交通を妨げてゐるものが尠くない、夫れを改めることは全國道路を通じての應急的對策である、此計畫では縣の中心地千葉市を起點として縣下の樞要地木更津町に達する道路と千葉から東金町大網町を経て勝浦町に達する道路と、東金町から岐れて銚子町に達する道路と、船橋から佐倉や成田を経て水郷と言ひ難さ

れてゐる利根川ほとりの佐原町に達する道路と、市川から木下町に達するものと、六號國道とを鋪裝せむとするのである、詰り千葉縣下水陸生産物の最も多い地方を貫通する幹線府縣道を近代的路面に築造するものであつて、其の經濟的價値は算盤を弾いて勘定するまでもないことであらう。

右の事業が千葉縣民の實際生活に即した一致の要求であることは、夫れを議する縣會が滿場一致で可決したことが物語つてゐる、此の如く歡迎さるべき事業を今まで放任してゐたことが悪いか、夫れとも放任してゐたが爲に歡迎さるゝに至つたのであるかは問はないが、兎も角一言半句の反對意見を見ないで通過したことは、近時に於ける千葉縣の政情が従來と異なるに至つた自然的原因に負ふ所が多いにしても岡田知事の時代を達觀した深慮に基くものと言はねばならぬ、某縣のやうに毎年度計上し來つた道路改良費の支出を時局匡救豫算に組替へ世の中を糊塗せむとする知事公とは雲泥の差あることが判るであらう。

内務省が右繼續費の設定を許したのは當然であるが、唯だ遺憾なことは財源の問題である、三百六十五萬圓の起債を一ヶ年度分だけ許可して其の他は當該年度で許否を定めむとすることは、結局事業の確實性を喪失せしむることゝ爲るのである、苟も繼續事業費其のものが許すべきものとするれば夫れに伴ふ財源も亦許さるべきであるに不拘、いつも事業と財源とを切離して可否を決定せむとするやうな行政は此際改めて貰はなければ、折角の計畫も繼續して執行することが出来ないことゝ爲るのである、筆者は内務財政當局の反省を求めて已まない。

從來から事業慾に悶へてゐた土木課長の西義一君も、是れでさぞや溜飲をさげたことであらう、聞けば郷里にある嚴父の長逝に遭つても、死んだものは今更仕方がないと言つて路政の爲に奔走してゐるとやら好漢自愛するが可い。